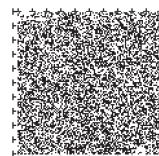


障害児支援事業所等における ソーシャルスキルトレーニング 実態把握調査

～結果概要・事例集～



東京都福祉保健局



はじめに

ソーシャルスキルトレーニング（SST）とは、社会の中で暮らしていくための技術（スキル）を身につけるための訓練（トレーニング）のことを言います。

社会の中で対人関係や社会活動を円滑に行うための知識や行動を、訓練を通じて「出来ること」を増やすことで、社会活動をスムーズに進めることができるようになります。

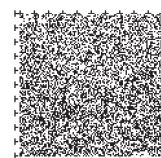
ソーシャルスキルトレーニングはその効果が実証されている体系的な訓練方法となっており、我が国においては、1994年4月に精神科を標榜している保険医療機関の入院加療者を対象として「入院生活技能訓練療法」が診療報酬化されています。

ここでは、対人関係以外にも、服薬管理や再発兆候への対処技能や、着衣・金銭管理等の生活技能といった技術習得も含まれています。

現在、ソーシャルスキルトレーニングは、教育や就労支援、職場のメンタルヘルスなど、私たちの生活の多くの場面で実践がなされてきています。

このたび、障害児支援事業所等におけるソーシャルスキルトレーニングの実施実態を把握し、より効果的に活用できるように知見を整理するためにアンケート調査を実施しました。

調査により得られた知見が、障害児（者）及びその保護者、支援者の皆さまにとって、よりよい療育環境の一助になることを願います。



もくじ

アンケート調査 結果概要

アンケート調査の実施概要、回答事業所の内訳	1
SSTの認知度、情報入手先	2
SSTの実施状況	3
SSTの実施内容	4
SSTの参考にしている情報、効果	5
SSTの実施に当たっての課題	6
SSTの活用意向、導入に必要な支援	7

プログラム事例

プログラム事例① 相談してみよう	8
プログラム事例② 感謝を伝えよう	10
プログラム事例③ 人の話をきいてみよう	12
プログラム事例④ 買い物をしてみよう	14

SSTの工夫例

子どもの理解に多様な視点	16
事業所全体でつくるSSTに適した療育環境	18
地域と一緒に取り組むSST	20

